



2004年10月1日

各位

オリックス・リアルエステート株式会社

**民事再生会社株ジェネラスコーポレーションの  
ビジネスホテル事業及び子会社株春帆楼を譲受する件**

オリックス・リアルエステート株式会社は、この度、民事再生会社株式会社ジェネラスコーポレーションのビジネスホテル事業の営業権及び子会社「株式会社春帆楼」の株式を2004年9月30日をもって譲受いたしました。

株式会社ジェネラスコーポレーションは、2004年4月に民事再生手続開始決定がなされた再生債務者です。本件民事再生手続において、透明性に重点をおき、公平、公正かつ円滑に遂行するために、同社の運営するビジネスホテル事業の営業権並びに株式会社春帆楼の株式を譲渡することを希望しており6月にオリックス・リアルエステートがスポンサーに選定されていました。

この度譲り受けるビジネスホテル事業は、札幌、広島(2カ所)、小倉、鹿児島の5ホテル合計966室の宿泊主体型のビジネスホテルであり、今後、当社及びオリックスグループのホテル運営会社ブルーウェーブ株式会社にて蓄積されたノウハウを注入して運営にあたります。「ブルーウェーブイン」の名称で、既に東京・大阪で展開している2ホテルを含め、合計7つのホテルでチェーン展開を推進し、ビジネスホテル事業の強化を目指します。5ホテルは立地的に主要拠点の中心部にあることから、チェーン拡大のために非常に魅力的であり稼働率が良い点を考慮すると、ビジネスホテルとしてのポテンシャルが高く、今後、適宜リノベーションを実施することにより、更なる収益アップが可能と判断しています。また、本事業は賃借物件による取組みであることから、資産保有の負担が無く投資効率面でメリットが大きいと考えています。

株式会社春帆楼は、日清講和条約(下関条約)が結ばれた割烹旅館「春帆楼」を引き継いだものであり、「ふく」を食した伊藤博文が豊臣秀吉により出されていた「ふく禁止令」を解いたことで「ふく公許第一号」となった老舗として知られています。組織的には2003年10月に会社分割によって設立された新法人であるものの、親会社の民事再生手続による影響で収益の悪化が進んでいました。今後オリックスグループの営業力、信用力をもって、「春帆楼ブランド」の価値を極大化することが可能だと考えています。

以上

本件に関するお問い合わせ先  
社長室広報グループ 谷合・御正(シヨウ)  
TEL : 03-5419-5102